



学習センター 外観



P2.学位記授与式



P4.さいたまフェスタ

文部科学省認可通信教育

放送大学埼玉学習センターだより

さ き た ま

2018年秋号(通巻42号)



P.5 サークル紹介



P.6 学生研修旅行



P.8 講演会・サロン

所長のひと言



埼玉学習センター所長 渋谷 治美

孔子の『論語』の「為政」篇に、「学びて思はざれば則ち罔(くら)く、思ひて学ばざれば則ち殆(あやう)し」という句がある。さてこの句の真意はどこにあるか。それは、「学びてかつ思はば、則ち殆からず罔からず」(めでたし、めでたし)にあるのだろうか。むしろ人間は必ず「罔い」か「殆い」かのどちらかでしかありえない、さてお前はどちらを選ぶか、といっているのではないか。

だとしたら僕は断然「殆い」人生を選ぶぞと、この句に初めて接した高校生のときに決意して以来、はや五十数年が経った。学ばばかりの人生を忌避したばかりに、先行研究の研究を疎かにしてきたつけがここへきて回ってきたが、時すでに遅し。



着任のご挨拶に代えて

井上 典子(いのうえ のに)

新年度の始まりよりも少し遅くなった5月、客員教員として着任いたしました。専門は学校教育です。公立中学校長として定年退職するまでの38年間、子どもたちやその家庭、教員や教員を目指す人、学校を取り巻く地域社会、大勢の人たちと関わりながら教育に携わってきました。「変化の激しい現代社会」に対応した教育の在り方は、ますます切実な課題となっています。私の専門教科である家庭科は、子どもたちの生活がよく見える教科です。衣食住はもちろん、家族・地域や消費生活などの暮らし方もずいぶんと変わってきました。

このところ、通学カバンの重さが話題に上ることが増えました。現在、使われている教科書は視覚からも理解できるように、カラー刷りのA4版、高価なファッション雑誌並みの重さがあります。それらを全部持ち帰るのは一仕事、では、どうするか、ひと工夫が必要です。中学校の家庭科の教科書も、1冊あれば新社会人の新生活がスタートできるくらい、豊富な資料とカラー写真が満載、調理実習のページなどまるでレシピ本のようなのです。

その家庭科の教科書から質問を1つ。「あなたは食べ物で()」この()の中に言葉を入れるとしたら、なんと入れるでしょう。「あなたは食べ物で機嫌が直る…?」答えは「あなたは食べ物でできている」。教科書では“You are what you eat.”という古いことわざが紹介され、「あなたとは あなたが食べたもの自体」と説明が続きます。人間の体は新陳代謝を繰り返し更新されていく、だから、私の体は私が食べたものでできているのです。

私たちは、日々、ものを食べていますが、自分の体に吸収された結果は目には見えません。食べても食べなくても、明日の自分の命・健康に大きな変化があるわけでもありません。けれど、自分の体、今を生きている力は、これまでに積み重ねてきた食べ物の成果、食べ物の力です。食べるということは、「未来の自分」「これからの自分」が健康でいられるかどうかを毎日決めている大切な営みです。

食べることに限らず、暮らしを学ぶということは生きていくことを学ぶことでもあります。放送大学学歌の「生きるとは まなぶこと」の言葉を心にこめ、「生きる」「まなぶ」そして「暮らす」、これらを繋いでいければと考えています。どうぞ、よろしくお願いします。

平成30年度 第1学期 学位記授与式・生涯学習奨励賞

平成30年9月22日(土)、平成30年度第1学期の卒業証書・学位記授与式および生涯学習奨励賞の授与式が行われ、埼玉学習センターでは晴れて90名が卒業されました。おめでとうございます。渋谷所長の向かって右側の男性は大正12年生まれ、宇都宮明さんとおっしゃいます。今年で95歳になりました。2学期からも再入学し、生涯学習を続けています。



生涯学習奨励賞

埼玉学習センターでは、複数の専攻・コースを卒業された方を表彰する「生涯学習奨励賞」の制度を設けています。平成30年度第1学期卒業生からも16名の皆様が表彰されました。受賞された皆様、誠におめでとうございます。

今回、金剛賞を受賞された倉持幸子様、白鳥誠様からコメントをお寄せいただきましたので、掲載させていただきます。

金剛賞	倉持 幸子 様	白鳥 誠 様	
金賞	瀧澤 千太郎 様		
銀賞	長岡 精二 様	中村 和明 様	納富 豊 様
銅賞	石瀬 誠 様	稲垣 安代 様	上野 勝雄 様
	小野寺 紳二 様	川崎 恭子 様	鈴木 れい子 様
	芹沢 有司 様	塚本 和也 様	名取 進 様
	橋本 安義 様		(五十音順)

倉持 幸子

大学で学びたいという永年の夢の実現に向けて2000年4月に放送大学に入学し(社会と経済専攻)“124単位取得、4年で卒業”を目標に必死で学び続けた結果、4年での卒業が叶い、学びの虜となり、再入学を繰り返すうちに、全専攻・コースを終え、この度名誉学生の称号と生涯学習奨励賞金剛賞をいただけることになり、とても嬉しいです。何事も“為せば為る”事を実証し、“知る喜び、生きる喜び”を知り、サークル活動を通じての仲間との交流など18年間に亘る放送大学での学びは掛け替えのないものであり、私の大きな財産です。

私の次なる夢は五街道踏破で、この9月から3年がかりの“中山道69次ウォーク”を始めました。これからは大学での学びを生かして健康長寿を目標に“きょういく、きょうよう、ちょきん”を心掛けつつ、ボランティア、社会貢献等をしながら日々元気に楽しく人生を謳歌したいと思います。

白鳥 誠

この度は、金剛賞をいただき大変光栄です。学部6コースと修士1コース修了は私にとって長年の目標でありました。

私が放送大学に入学したきっかけは、仕事上で多くの社外の皆様と接するためには、知識に裏付けられた幅広い教養が必要と強く感じたからでした。しかし仕事を続けながら勉強は想像以上に大変な経験となりました。

「自然の理解」から始めた放送大学の授業はとても新鮮で、外国語などの単位取得に苦労したものの、素晴らしい教授陣の教科は楽しくすっかりはまってしまいました。その後、修士課程「環境システム科学群」を修了し、学部に戻りました。会社での仕事も「環境」にかかわる仕事を担当することができ充実した会社生活を送ることができました。

放送大学で最も楽しかった思い出は、2017年3月上野「奏楽堂」で開催された「ベートーベン第九合唱」であります。1年半の練習は埼玉学習センターの皆様や渋谷学習センター所長とも親しくなれる機会をいただきました。今後は放送大学で吸収した知識と経験を少しでも地域の方に還元することができればとギター同好会に入り「高齢者施設」の合唱伴奏など始めています。

また、今後も放送大学との縁をつなごうと選科履修生として再入学しました。

放送大学埼玉学習センター 学園祭 第12回 埼玉フェスタ

平成30年9月15日(土)～16日(日)の2日間に亘り、埼玉フェスタが開催されました。今年度は『新たなチャレンジ』をテーマに絵画や書道の展示や、ジャズ演奏やダンスに加え、音楽に興味のある学生で企画された“音楽の祭典”も開催されました。今回、音楽の祭典の実行委員長を務めた南雲功さんよりコメントもいただきました!!



音楽の祭典について

音楽の祭典実行委員長 南雲 功

この度、埼玉フェスタ2018の企画として、「音楽の祭典」を実施しました。この企画は、1年前に、音楽を通して語り合う場があればという、ある雑談の中から始まります。当初は音楽カフェのようなものでしたが、大学が恒例の公開講演会を「祭典」のために休止していただいたことにより、場所と時間が確保されました。その後も、学習センター、CSC、同窓会、関係サークルなど多くの方々との話し合いの中から今回の祭典が実現したものです。「祭典」の大きなコンセプトとして、サークルに所属していない「一般学生」のフェスタへの参加促進があげられます。個人演技の部には予想を上回る12名の方が参加されました。また、歌声広場やダンスの部にも多くの方が客席から積極的に参加されました。

今回、舞台上演じられた方は約80名、来場者は、プログラムを渡した方が185名もいました。ジャンルも和洋古今と多彩であるばかりでなく、楽器も18種類が登場しました。さらに、関係者のご尽力により、茂木一衛・恭子客員教授夫妻、バトン歌手の福井克明さん、ジャズピアニストのSA・TO・MIさん、民謡指導の斎藤カツ子さん、オペラ彩の事務局長南幸子さんという日ごろ音楽活動に直接関わっている音楽専門の方々も来場していただきました。単なる学芸会以上の音楽、人との触れ合いができる場ができたものと自負しております。

反省する点も多々ございますが、多くの学生が自己表現し、多様な仲間と触れ合える場として、今後さらなる発展をし、埼玉学習センターフェスタの目玉になることを祈念いたします。



♪ サークル紹介 ♪

今回音楽の祭典を主催したサークル“Wienerwald Musikfreunde(ウィーンの森の音楽愛好家)”のサークルの様子を紹介いたします!

音楽と美の時空を訪ねる

相川 智子

初めてのヨーロッパ旅行!それも普通の観光旅行ではなくウィーンの歴史あるペーター教会で合唱する!思いがけないチャンスにフクフクドキドキ!のはずが、あら大変。毎朝仏壇でロウソクと線香に火を点け手を合わせ、教会とは縁のない生活をしている私が、初めて聴くシューベルトのミサ曲を覚えらるはずもなく、5月からドイツ語辞書を片手に悪戦苦闘の日々が始まった。

芸大奏楽堂での第九合唱に参加したメンバーが新たに立ち上げた器楽・合唱の茂木サロン。サークル名はWWM(Wienerwald Musikfreunde ウィーンの森の音楽の友達)。サークル名をご覧になった茂木一衛先生が「いつかウィーンで合唱できたらいいですね」の一言から夢の扉が開き、まさに短期間で有言実行となった。夏から本格的な練習が始まり、まだまだドイツ語と暗譜には不安はあるが、「作曲者に思いをはせて歌えるか?」をテーマにいざ出発!

21日夜ザルツブルク到着。翌朝は、幼い頃のモーツァルトが走り回ったであろうミラベル宮殿の庭園でアヴェ・ヴェルム・コルプスを歌う。モーツァルト生家等の市内観光。

23日ウィーン着。いよいよ本番。この頃には茂木先生のご説明で、ウィーンで生まれ育ったシューベルトがより身近な存在になっている。ペーター教会は緑のドーム型屋根を持ち、重厚な落ち着いた雰囲気奥には立派な祭壇とパイプオルガン。合唱の前にパイプオルガンが鳴り響き迎え入れてくれる。茂木先生指揮で40名がシューベルトのドイツミサ曲D872の1~9番とモーツァルトのアヴェ・ヴェルム・コルプスを歌う。歌い終わると、オルガンのハレルヤが教会を包み込み、更なる感動を呼び起こす。およそ30分の合唱だったが、歌い終わった瞬間は、神様に感謝し、シューベルトとモーツァルトに感謝し、茂木先生ご夫妻に感謝し、WWMの仲間に感謝し、家族に感謝した時間でもあった。

25日パリ着。セーヌ川をボートバスで下り楽しい観光と買い物。そして帰りの飛行機。

振り返ればあっという間の貴重な音楽体験の旅だった。もう少し練習時間を取り、もう少し完成度を上げたかったと反省している次第である。

ペーター教会とは...

9世紀創建のウィーンで2番目に古い教会。現在の建物は、ベルヴェデーレ宮殿なども手がけたバロックの巨匠ルークス・フォン・ヒルデブラントによって18世紀に改築されたもの。



9月23日 ペーター教会にて



9月23日 ペーター教会前にて 集合写真

2018年度

学生研修旅行

～秋の箱根で童話の世界と芸術に触れる1日～

今年度の学生研修旅行が9月26日(水)に催行されました。あいにくの雨模様でしたが、32名の学生が参加されました。今回は星の王子さまミュージアムとポーラ美術館の2箇所を回り、芸術に触れた1日となりました。

埼玉学習センター 出発

星の王子さまミュージアム



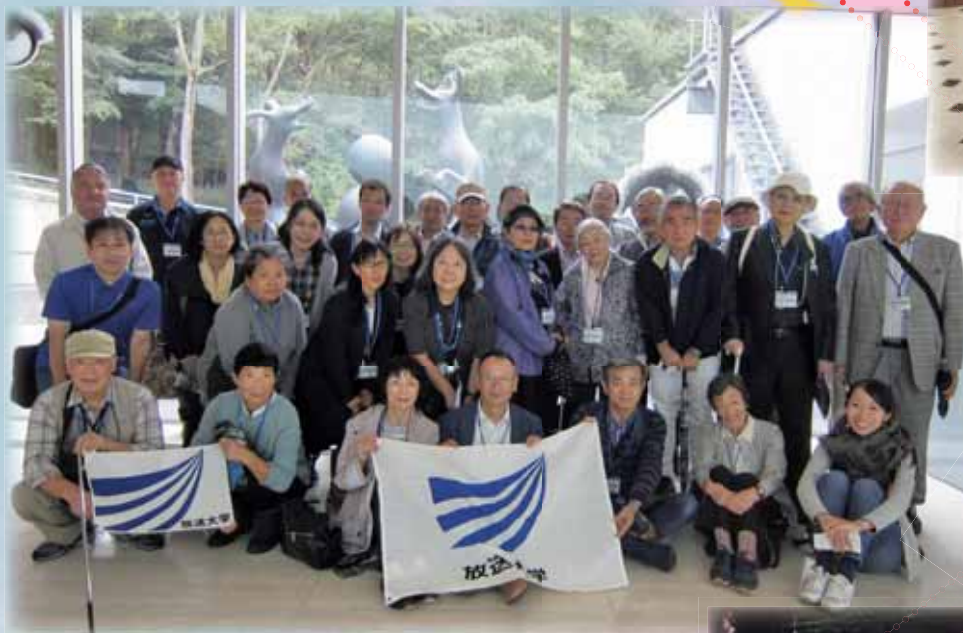
まずはみんなでランチ!
“小惑星ほしの火山のグラタンハンバーグ”で
星の王子さまの世界へ…☆

展示ホールではサン＝テグジュペリの生涯を。
外観はヨーロッパの町並みのような美しさ…
星の王子さまの物語へ旅をしてきました。



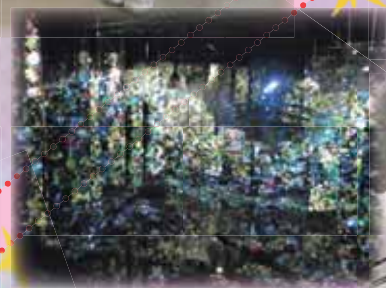
ポーラ美術館

ポーラ美術館へ移動!
みんなで集合写真をパチリ!



それぞれ展示ホールへ。
企画展「ルドン」を中心にさまざまな
作品の展示がありました。

どの作品も見ごたえがあって、
時間が足りませんでした…



埼玉学習センター 到着
おつかれさまでした!!

今回の研修旅行にご参加いただいた、鹿角雅子さんのレポートを掲載させていただきます。



カヅノ マサコ
鹿角 雅子

星の王子さまの世界から

『星の王子さま』の著者サン・テグジュペリの名は私が大学受験に失敗し、予備校へ通っていた時、数学の I 先生の話に出てきた懐かしい名前であった。その頃購入したと思われる『人生に意味を』『ある人質への手紙』が今も本箱の片隅に色あせてある。

数十年前であったか、故渡辺和子氏の講演を聞いたことがある。5,000本の中の1本のバラの話を思い出した。『目には見えないけれど大切なもの』という本を手にしたのもこの時である。

サン・テグジュペリ生誕100年を記念して建てられた「星の王子さまミュージアム」へは今回初めてで、楽しみにしていた研修旅行であった。彼が幼年時代を過ごしたという安らぎの城=サン・モーリス城は城にイメージするきらびやかさはないが、雨がやんだこともあり、苔などが目につき、空気はしっとりとしていて心落ち着く場所であった。そのまわりの庭園には色彩豊かな花たちが待っていてくれた。(アジサイは終わりの頃であったが。)

そしてそして本の中に出てくる王さま、実業家、点燈夫、地理学者たちの像に思わず笑みがこぼれた。

星の王子さまは小惑星「B612」に1人で住んでいたが、そこに咲いている1本のバラとのいさかいをきっかけにその星を飛び出し、7つの星を旅する物語である。

そして7番目が地球であった。王子さまが地球に着いたとき誰もいなかった。星を間違えたのではと心配していたら、月の色をしたとぐろを巻いたものが砂の上でほどけた。

この物語はヘビの登場で始まり、ヘビの登場で終わっている。書き出しは、6歳のとき見た『ほんとうにあった話』での大蛇(ウツバミ)が獲物を丸呑みにしている、本の挿絵である。2番目が地球についたときである。3番目が石垣の上に腰掛けて王子さまが足をぶらぶらさせながら話している相手はヘビである。最後が1年後、王子さまの星が頭上へきたときヘビは約束どおりのことを実行した。王子さまの踵あたりを襲ったのはまさに黄色い閃光…。それはヘビだと考えられる。

今回読み直してみて、起承転結がはっきりした構成だと思った。

次に狐の登場。狐との「さよなら」の場面で「おれの秘密を教えようか。簡単なことさ。心で見ないと肝心なことは目には見えないということだ」「肝心なことは目には見えない」「あんたのバラがあんたにとって大切なものになるには、そのバラのためにあんたが時間をかけたからさ」「人間というものはこの真理を忘れているんだ、だけど忘れてはいけない。あんたが飼いなしたものに対してどこまでも責任がある」この後「目には見えない」という言葉が3箇所出てくる。

王子さまが狐に出会ったこととで新しい気づきが生まれてくる。「星が美しいのは、目には見えない花が1つあるからなんだ」又、「砂漠が美しいのは、どこかに井戸を隠し持っているからだよ」と。

とても心に残る言葉だとあたためて思う。夜空を見ると今までは月をまず見つけ、その輝きや大きさによりかぐや姫や十五夜のうさぎを想像することはあったが、さらに星の王子さまの星と花を見つきたいという楽しみがもう1つ増えたように思われる。

『シェイクスピアに学ぶ老いの知恵』小田島雄志の著の中に“人生の意味は喜びや悲しみの感情の総和がどれだけあるかで決まる。芝居を見るのは芝居の登場人物たちの人生を追体験することで、たくさんの喜びや悲しみを味わうことが出来るからでもある”と。

小田島氏の「追体験」という言葉によれば、今回研修旅行に参加でき、星の王子さまの世界を見たことにより、私自身の引き出しが1つ増えたということになるのでしょうか。

いつの日か又たずねてみたい場所である。



学習センターからのお知らせ

今後の公開講演会スケジュール

フェアウェル・シリーズ

12月16日(日) 心理テストの限界と奥深さ—ソンディ博士に魅せられて
講師：吉川好昭先生（放送大学埼玉学習センター客員教授）

2月16日(土) 錯体の化学は世紀を超えて

講師：永澤明先生（放送大学埼玉学習センター客員教授）

芸術アンコール・シリーズ

2月10日(日) 歌手の四方山話—声楽家が見た音楽風景—

講師：福井克明先生（声楽家、合唱指揮者）

時間：14:00～16:00 会場：8階講堂

参加お申込みは開催日の約1ヶ月前から、ホームページまたはお電話にて受け付けます。
公開講演会は一般の方もご参加いただけます。ご家族、ご友人のご参加も
お待ちしております！！

月

日

◎今後のサロン開講予定◎

- ★サロンしづや 2018年12月27日(木)・・・映画とクラシック
2019年 1月 9日(水)・・・シェイクスピアを楽しむ
- ★サロンながさわ 2018年12月 9日(日)
- ★サロンあんどろ 2018年12月14日(金)・・・都市交通と信用乗車制度
- ★サロンこざわ 2018年12月22日(土)・・・ドローイングとは何か

お申込みは学習センター窓口またはお電話で！開催の約一ヶ月前より承っております。
サロン詳細やその他のサロンは、学習センター掲示板もしくはHPでご確認ください。



◎年末年始の閉所期間◎

平成30年12月29日(土)～平成31年1月4日(金)

図書室・視聴学習室を含めて全館閉所となります。
ご迷惑をおかけいたしますが、ご承知くださいますようお願いいたします。

埼玉学習センターに関する情報は、ホームページでいち早くお知らせ
しています。是非、ご覧ください。

放送大学 埼玉

検索

〒330-0853 さいたま市大宮区錦町682-2
大宮情報文化センター（通称：JACK大宮）内（受付：10階）
TEL 048-650-2611 FAX 048-650-2615

